

令和7年1月18日

修了生勉強会（刑事系） 第1回（ミニ答練 問題）

（注1）問題1と問題2の答案用紙は、別のものを使用すること

（注2）答案用紙の上部の余白に、氏名を記載すること

【問題1】刑法 次の事例における甲の罪責を論ぜよ（特別法違反は除く。）。（25分）

甲（28歳）は、かねてから恨みを抱いていた会社の同僚であるV（27歳）に仕返しをしてやろうと企み、Vの自宅を燃やそうと考えた。Vの自宅は、郊外にある木造2階建ての一軒家で、Vが1人で生活をしている。

甲は、令和元年7月1日午前3時頃、Vの自宅に赴き、Vが自宅内にいないことを確かめた上で、火をつけた新聞紙を屋根の上に放り投げたところ、Vの自宅の屋根は燃焼を始め、火は屋根から高さ1メートルほどにまで大きくなった。しかし、偶然その場を通りかかり、甲の行為を見たAがすぐに呼んだ消防車がかけつけ、火は消防車到着後5分ほどで消し止められた。なお、このとき、Vは旅行中で、自宅には誰もいない状態であった。

【問題2】刑事訴訟法 次の事例の設問に答えよ（25分）

警察官Pは、集団による連続強盗事件の犯行グループの一員である疑いの濃厚な甲の容ぼうと、甲宅に常時出入りする者の容ぼうを写真撮影してこれを被害者等に示し、犯人の特定を行おうと考えた。そこで、Pは、甲宅向かいのビルの一室を借り受け、望遠レンズを装着したカメラを設置し、そこから甲宅内にいる甲の容ぼうを撮影した（本件撮影①）。

また、Pは、甲宅から出てきて路上を歩行している乙の容ぼうも撮影した（本件撮影②）。

これらの写真撮影は適法か。